

# 病虫害発生予察情報

令和2年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 8月予報

## 【 水稲 】

**斑点米カメムシ類** \* 病虫害発生予察注意報第3号 (R2.7.22付) 発表

7月中旬の一斉調査では、イネ科が優先する畦畔やヒエなどのイネ科雑草が出穂している水田内で本虫が散見され、斑点米生成能力が高い大型のクモヘリカメムシが多く確認されています。また、中濃及び東濃地域に設置した予察灯では、アカスジカスミカメの累計誘殺数が多くなっています。水稲の出穂直前および出穂後の畦畔除草は、本虫を水田内に追い込む恐れがあるため、出穂10日前までに実施するとともに、水田内のヒエ類等は、出穂前に確実に除去してください。

**いもち病** \* 病虫害発生予察注意報第4号 (R2.7.22付) 発表

BLASTAM (アメダスを利用した葉いもち発生予察システム) によると、感染好適条件が頻出しており、葉いもちが広域で発生し、一部地域では進展型病斑が認められます。ほ場での発生状況に十分注意し、葉いもちの発病が認められるほ場では、穂いもちの発生が懸念されるため、出穂期の防除を実施してください。

## 【 果樹 】

**果樹カメムシ類** \* 病虫害発生予察注意報第1号 (R2.5.27付) 発表

予察灯及びフェロモントラップへの誘殺数は、7月中旬以降急増し、カキでは被害果が顕著に認められます。今後もこの傾向が続くと考えられるため、ほ場への飛来が認められる場合、直ちに防除を実施してください。

### ○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (8月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 旬	2 旬	3 旬	4 旬	5 旬	6 旬	
水稲	生育(ハツシモ)	並							・7/16 調査(6/10 田植：農業技術センター)
	生育(コシヒカリ)	並	穂 揃 >						・7/16 調査(5/11 田植：農業技術センター)
	穂 いもち	多	初 発 生 ( 出 穂 以 降 )						・ <b>穂いもち</b> 穂ばらみ期～穂揃期に防除を実施する。
	紋 枯 病	やや少	< 発生最盛期 >						・ <b>紋枯病</b> 発生を確認したら薬剤防除を実施する。
	ニカメイガ	少			<第1世代成虫>				・ <b>ニカメイガ</b> 発生を確認したら薬剤防除を実施する。
	セジロウンカ	やや多	<第2世代幼虫>			<第2世代成虫>			・ <b>セジロウンカ</b> 8月上旬に株当たり幼虫が5頭以上いる場合は防除を実施する。
	トビイロウンカ	並							・ <b>トビイロウンカ</b> 8月上旬に株当たり幼虫が5頭以上いる場合は防除を実施する。
	ツマグロヨコバイ	やや少	<第3世代幼虫>			<第3世代成虫>			・ <b>ツマグロヨコバイ</b> 発生を確認したら薬剤防除を実施する。
	斑点米カメムシ類	多	本 田 へ の 侵 入 ( 出 穂 以 降 )						・ <b>斑点米カメムシ類</b> ジノテフラン粒剤による防除は出穂7～10日後に散布するのが効果的である。
	防 除 適 期	穂いもち・紋枯病：穂ばらみ～穂揃期に同時防除を実施する。 斑点米カメムシ類：散布剤による防除では、穂揃期およびその7～10日後の2回を基本とする。							
大豆	ハスモンヨトウ	並			< 発生量増加 >				・ <b>ハスモンヨトウ</b> 発生に応じて防除を実施する。
		防 除 適 期							
かき	岐阜西濃 ハマキムシ類	やや多			<第2世代幼虫>				・ <b>ハマキムシ類</b> 幼虫発生初期の防除を徹底する。
	中濃 カキノヘタムシガ	少					<第2世代幼虫>		・ <b>カキノヘタムシガ</b> ・第1世代成虫 発蛾最盛期 7/24 (平年 7/20：岐阜市)
		やや少							
		防 除 適 期	▲ハマキムシ類(岐阜西濃) ▲ハマキムシ類(中濃) ▲カキノヘタムシガ						
もも	灰 星 病	やや多	< 果実発病最盛期 >						・ <b>灰星病</b> 本病は収穫後の市場病害として問題となるため、収穫前に予防的防除を必ず実施する。
	ナシヒメシンクイ	並			<第3世代幼虫>				
		防 除 適 期							
果樹	カメムシ類	多	< 主に新世代成虫 >						・ <b>果樹カメムシ類</b> 飛来が認められる場合は直ちに防除を実施する。
		防 除 適 期							
茶	岐阜西濃 ハマキムシ類	多			<第2世代幼虫>				・ <b>ハマキムシ類</b> 幼虫発生初期の防除を徹底する。
	中濃 カキノヘタムシガ	やや少					<第2世代幼虫>		
		防 除 適 期	▲ハマキムシ類(岐阜西濃) ▲カキノヘタムシガ ▲ハマキムシ類(中濃)						

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 旬	2 旬	3 旬	4 旬	5 旬	6 旬	
野菜・ 花き	灰色かび病	多							<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一系統薬剤の連用は避ける（薬剤耐性および抵抗性の発達）。</li> <li>・<b>灰色かび病</b> 花ガラや葉先枯れは感染源となるため取り除く。</li> <li>・<b>ハスモンヨトウ</b> 幼虫発生初期の防除を徹底する。</li> <li>・<b>ハバコガ</b> 類 幼虫は新梢の隙間や花蕾内に生息するため、十分量の薬液を丁寧に散布する。</li> </ul>
	ハスモンヨトウ	やや多			< 発生量増加				
	タバコガ類	やや少			< 発生量増加				
	コナジラミ類	多							
	アザミウマ類	やや少							
	ハダニ類	少							

注1) ▲、▲～▲：防除適期

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

### いもち病（葉いもち）

BLASTAM（アメダスデータを用いたいもち病感染好適条件の判定システム）によるいもち病の発生条件

表1 2020年7月BLASTAMによるいもち病の発病条件 病害虫防除所

日付	岐阜	大垣	愛西 海津	関ヶ 原	揖斐 川	樽見 根尾	美濃	八幡	長滝 白鳥	美濃 加茂	黒川 白川	多治 見	中津 川	恵那
7/5	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—	●	●	●	●
7/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/8	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●
7/9	—	—	●	●	—	●	—	—	◎	●	◎	●	●	●
7/10	●	●	●	●	—	—	●	●	◎	●	●	●	●	●
7/11	○	○	●	●	—	—	○	—	—	—	—	○	—	●
7/12	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
7/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/15	—	—	—	—	—	●	●	●	◎	—	●	—	●	—
7/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/18	—	●	—	●	●	●	—	—	△	—	◎	—	—	●
7/19	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—
7/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/23	—	▲	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
7/24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/25	—	—	—	▲	▲	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/26	—	—	▲	—	○	—	—	—	—	▲	●	▲	●	●
7/27	—	▲	—	—	—	●	●	●	●	—	—	—	—	—
7/28	○	○	●	●	●	●	●	—	—	—	—	—	—	—



穂いもち（穂首いもち）

凡例

- △：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は20℃未満）
- ▲：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は25℃以上）
- ：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、湿潤時間の平均気温は15～25℃の範囲外）
- ◎：準好適条件（湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとの必要な時間より短い）
- ：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある）
- ：好適条件、準好適条件は満たされなかった。
- 空欄：欠測値があるため判定不可能

※BLASTAMデータについては右のQRコードに掲載していますので、ご活用ください。



### 灰色かび病（夏秋トマト）

7月下旬の発病状況調査では、7月上旬の調査時より発生量が増加して、ゴーストスポットを含む発病果率は、中濃地域で4.1%（平年0.8%）、東濃地域で1.9%（平年0.7%）と多く推移しています。

本病は20℃前後の比較的低温で90%以上の高湿度が連続すると多発します。今後も曇雨天が続くと発生が増加することが想定されます。

本病は花ガラや葉先枯れ部などの枯死した部分に大量に胞子を形成するので、枯死部は早めに取り除くとともに、曇雨天が続く場合は、薬剤により防除を実施してください。

#### 6～8月は「農薬危害防止運動」実施期間です。

農薬の適正な使用、保管管理に努めましょう。農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物だけでなく、住宅地等へも飛散がないよう、十分に配慮しましょう。

#### 東海地方1か月予報（名古屋地方気象台 7月23日発表）

向こう1カ月の気温は平年並、降水量は多く、日照時間は平年並～少ないと予想されます。

期間のはじめは降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

[http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index\\_11901.html](http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/index_11901.html)

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767